

# 競輪・競艇は彦根市の活性化に役立つか？



彦根市原町に計画されている場外券売場については、「ギャンブル施設とはいえ、人が集まってくれば彦根市の活性化に役立つから賛成だ」という人がいますが、本当でしょうか。競輪や競艇で儲けようと集まってくる人達はギャンブル以外にお金を殆んど使いません。競輪・競艇ファンが殺到すれば、交通渋滞が慢性化し、犯罪が増え治安が悪化するばかりで、健全な買い物客や観光客から敬遠されるようになり、街はさびれていきます。競輪、競艇で街が活性化するのであれば、競輪場と競艇場を併せ持つ大津市の商店街は大繁盛しているはずですが、実態はそうでもないようです。

## 競輪の街「立川市民ナマの声」

全国的に「競輪の街」として有名な立川市でも競輪場周辺の住民は困っています。立川競輪場近くの市民にアンケートした結果を紹介しましょう。（調査・西新宿競輪施設誘致反対の会）

「酔っぱらいが、靴や自転車を盗んだりしたあげく、店に入って『お金、タクシー代を貸してくれ』と粘る。

子供や女性にもチョッカイを出して、興行のある日は女性も子供も外に出せないほどだ。競輪場に訴えても、全く取り合ってくれない。」

「ガラが悪い。鉛筆、新聞を捨てる。家の中に新聞を投げ込んで行く。垣根に飲みかけの酒を置いて行く。」

「泥棒が多い。交通が混雑する。」

「ゴミやタバコの吸殻を捨てたり、酔って路上で用を足す人がいる。」

「車のドアを壊されたり、中の物を盗まれたり、パンクさせられたりしたことがある。家の前で酔っ払いが寝ていたことがある。」

「開催時は多少お客さんが増えるが、トイレを利用するだけで売上げ増加につながらない。」

「酔っ払いが増え店の看板などを壊す。」等々。このアンケート結果を見れば、「競輪、競艇で街が活性化する」等というのは全くのデマであることがよくわかります。

## 国会、県議会で真相解明へ

4月20日の衆議院 国土交通委員会で穀田恵二議員は、「彦根のポトピア計画は無茶苦茶だ。業者と自治連合会長などが『基本協定書』を締結したが、計画地は自治連合会長などの所有地で、東びわこ農協、滋賀銀行などの抵当物件になっている。同じ自治会の人々の多くが連帯保証人に名を連ねており、差し押さえの危険があることから、計画に同意したと見られる。こんな計画を承認すれば国土交通省の汚点になる」と迫り、政府の見解を求めました。これに対し国土交通大臣は、この話を「参考にしながら検討したい」と答えました。

6月29日の滋賀県議会において森茂樹議員が「彦根市長選挙で場外車券舟券売場に反対する

獅山市長が当選し、前市長の場外車券舟券売場についての同意を撤回した。滋賀県は舟券売場彦根進出断念を表明すべきだ」「原開発については旧彦根市農協、東びわこ農協、滋賀県信用農業協同組合連合会などが、返済が滞っているにもかかわらず、長年に渡って巨額の融資を繰り返してきた。県は、常例検査の中で法違反、規則違反などの行為を認めなかったのか。」と、滋賀県の監督責任について鋭く追及しました。

これらの国会、県議会の審議は全国にインターネット中継され大きな反響を呼び起こしました。彦根市原町の巨大ギャンブル施設建設計画は国会、県議会での審議や度重なる新聞報道などにより、全国的にも注目されつつあります。

巨大ギャンブル施設建設に反対する署名に取り組んでいます。皆さんのご協力をお願いします。